

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

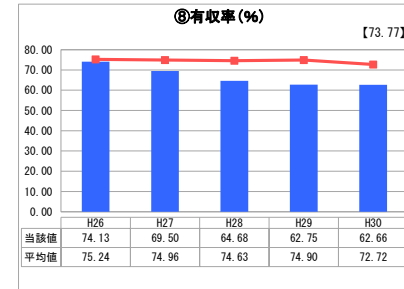
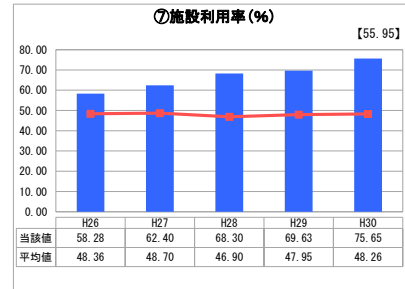
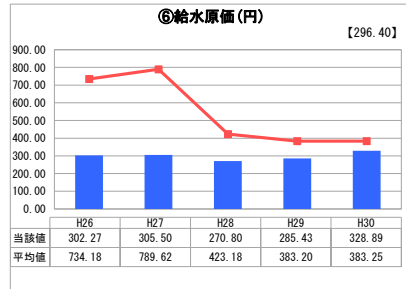
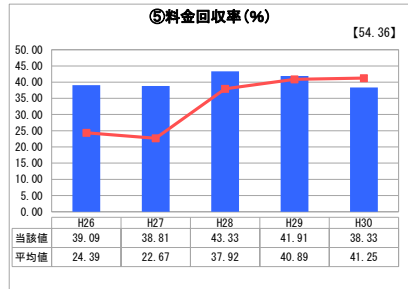
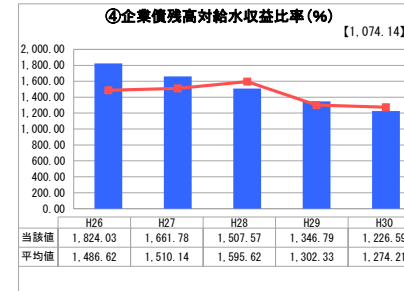
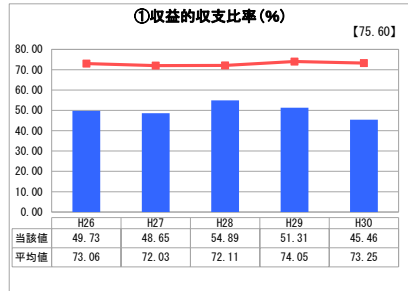
高知県 三原村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり客塵料金(円)	
-	該当数値なし	99.80	2,138	

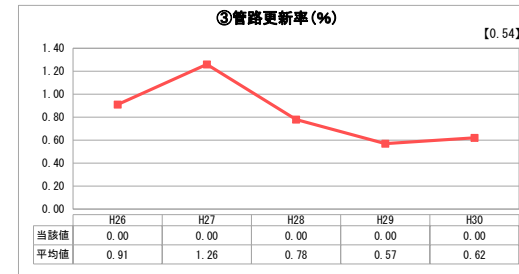
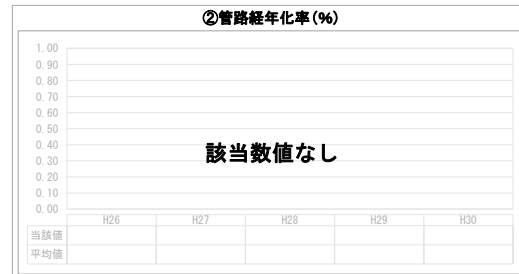
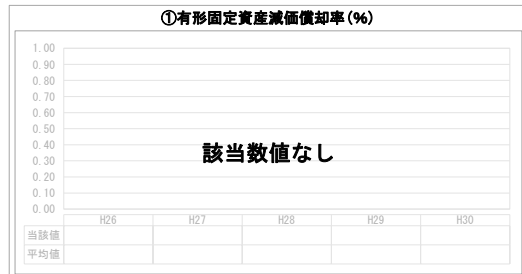
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,531	85.37	17.93
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,507	53.44	28.20

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

給水人口が少ないため総収益が少なく、管路延長が人口の割に長いため経費もかさみ、収益的収支比率については45%程度と平均値を下回り、料金回収率についても今年度決算から平均値を下回っており、単年度赤字であることより、水道料金の改定を踏まえた経営改善に向けた取組みが必要であると考えられる。

### 2. 老朽化の状況について

管路については布設後30年以上経過した老朽管もあり、漏水量が多いため多くの弊害が出ている。布設後20年以上経過した配水管路は今後計画的に耐震化を考慮した管路更新を進める必要がある。

### 全体総括

今後は人口の減少に伴い年間総有収水量は減少していくと考えられる。このような状況を踏まえ、水道事業の現状の分析を行い、将来の水需要量に見合った施設整備計画（長寿命化計画の策定）及び財政収支計画に基づいた経営改善に向けた取組みが必要である。